

平成22年3月31日

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名

兵庫県神戸市

事業名称

携帯端末を活用した観光客等支援モデル事業

1. 事業実施概要

観光情報の提供について、観光客の利便性向上を図るため、案内板や観光ガイドマップに記載した2次元コードを携帯電話のカメラ機能を利用して読み取ることで、観光施設等の詳細情報や地図情報の表示、目的地までのルート案内を行うシステムの運用を継続する。平成21年度は、システムを拡充した観光ラリーを実施した。新たな検索カテゴリを設けるなど、情報を充実し、観光客の回遊性を高める取り組みを行った。

配送支援について、平成19年度は、不在時のきめ細かい指示の実行や、伝票への個人情報の記載の排除、平成20年度は、観光客が購入した土産物等を宿泊先に送る「てぶら観光」モデルの実証実験を行った。平成21年度は、uコードを活用した空間情報の機能を拡充して、発注者が配達先の詳細な位置情報の登録を行うモデルの実証実験を行った。平成19～21年度に構築し検証した機能を組み合わせることにより、今後、付加価値の高い配送サービスモデルの構築を図っていく。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
【観光】 観光入込客数	2,880万人	2,861万人	△	神戸市国際文化観光局調べ
情報利用回数	8千件/月	3.6万件/月	○	システム稼働実績 (平成21年4月から2月までの月平均アクセス数)
【配送】 利用者満足度	調査回答者の44%が支持	調査回答者の93%が支持	○	位置情報の登録方法についての利便性
利用者(モニター数)	50人	44人	△	
利用件数	100件	86件	△	

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

観光入込客数については、平成21年度数値の発表が平成22年度初頭となるため。

配送モニター数・利用件数は一定条件のビル内企業限定であり、募集には限界があったため目標値よりは少なかったが、実証実験の検証には影響が無かった。

<委託業務説明書>

1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

平成20年度に実施した観光ラリーでは、選択したモデルコースを全て回り完了する方式であったため、目的を持って訪れたり、参加時間に限りのある観光客には不向きであった。

平成21年度では、選択した施設だけを巡ることができるコースを創設したり、ポイント制を採用し、施設通過や施設にちなんだ設問に解答することで一定のポイントが貯まれば、ラリーを完了できるようにした。

これにより、少しの空き時間を有効活用して、観光客の回遊性を高めることができた。

2 自律的・継続的運営の見込み

観光情報提供サービスでは、施設情報については既存のウェブサーバを活用した。協議会に参加している各団体の携帯電話用ウェブサイトへリンクを張る形でシステムが構成されており、今後システムの改善を進め、観光関連団体等が有用性を実感できれば、当該団体等により継続的に運営される見込みである。2次元コードを利用した観光ラリーシステムも実用性が高まっており、今後も一定の区域や、イベント会場内での活用が期待できる。

配送では、実証実験参加事業者の満足度が得られる結果となっており、実証実験で得た成果を組み合わせれば付加価値の高いサービスが構築できる。配送料の採算やシステム運用費の回収の見込みが課題である。3か年の実証実験においても、購入者が利便性を感じ、配送料を負担してもサービスを受けたいという意見もあったことから、そのような状況に該当するようなビジネスモデルを検討していく。

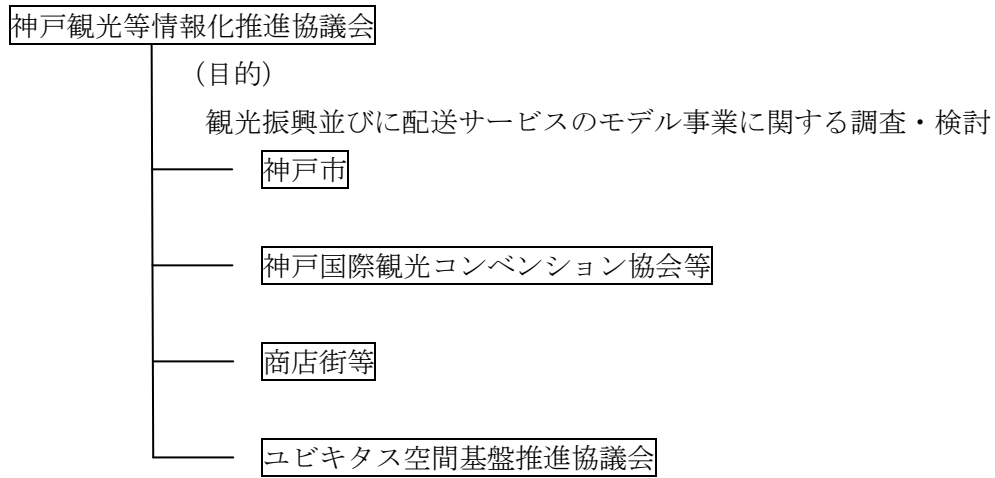
3 今後の展開方針

観光情報提供サービスについて、現在の運用を継続していく。提供する施設情報の充実を図るとともに、実施した観光ラリーのように、施設毎に付与された位置情報を活用し、回遊性を高める取り組みを継続する。

配送支援サービスについては、今回の実証実験を土台として、u-コードを用いた配送サービスなど、市民の買い物支援として利便性の高いサービスを模索する。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	神戸市	実施主体、全体調整、進捗管理
2	神戸国際観光コンベンション協会 等	観光に関する情報発信(観光施設等) (コンテンツ制作、ホームページ運用)
3	商店街 等	観光に関する情報発信 (コンテンツ制作、ホームページ運用)
4	ユビキタス空間基盤推進協議会	ユビキタス空間基盤関係の技術提供

事業実施進行表

実施内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22 1月	2月	3月
協議会等開催								△			△	△
システム構成の 検討・決定	観光 配送						→					
システム設計・ 開発							観光 →		配送 →			
システム稼働												→
評価											→	→
報告書作成											→	→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

http://www.city.kobe.lg.jp/information/project/innovation/ict/index_01.html

平成22年3月31日

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：神戸市

代表団体名：－

事業名称：携帯端末を活用した観光客等支援モデル事業

1 概要

<観光情報提供システム>

案内板や観光ガイドマップに記載した2次元コードを携帯電話のカメラ機能を利用して読み取ることで、観光施設等の詳細情報や地図情報の表示、目的地までのルート案内を行うことができ、システムを活用して観光ラリーなども実施できる。

<配送支援システム>

特定の場所に係る情報を活用できる基盤として機能する他、配送先の位置情報を利用者が容易に入力できる環境を提供し、テンポラリーな場所への配送を支援する。

2 運用結果

<観光情報提供システム>

サイト全体では月約3.6万件のアクセスがあった。観光ラリーでは18日間で206名の参加があり、システムのアクセス数も実施期間の11月は例月の約4倍と大幅に増加し、観光客の回遊性向上に役立った。

<配送支援システム>

実証実験参加者は44名、利用件数は86件。地図からの容易な位置情報の登録方法は90%以上の参加者から肯定的な意見を得た。商品の誤配・遅延も無かった。配送料を負担してもサービスを利用するか否かについては、状況によっては利用したいとの意見があった。

3 課題・改修の必要性

<観光情報提供システム>

観光ラリーシステムは、観光客の行動に合わせられる柔軟な対応が可能となった。今後はこの機能を対応エリアの各地で活用していく必要がある。また、固定的な内容となりがちな施設情報のコンテンツについては、ロケ地情報の掲載を初め、様々な角度から魅力ある内容にしていく必要がある。

<配送支援システム>

配送料の負担が課題であり、利用者が配送料を負担しても、なお利便性を感じられるような内容のビジネスモデルを検討し構築していく必要がある。

4 その他